峰山高校野球部通信

No. 6 2012.7.30 発行／京都府立峰山高等学校野球部保護者会

一回戦、延長11回で劇的逆転勝利!!

まさに全員野球!!

一回戦

2012.7.10

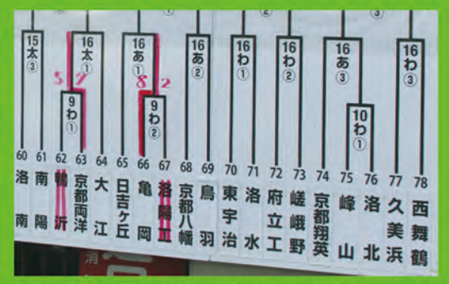
わかさスタジアム京都

vs. 洛北戦

0対6（あわやコールド負け）の8回、ようやく1点を返し5点差で迎えた9回。2アウトからの連打で一挙5得点。同点に追いつき延長11回に2点を入れ逆転勝利しました。

一年生と昨年、一昨年卒業された先輩たちとの熱のこもった応援

この時の校歌斉唱は格別です



左側の千羽鶴は吹奏楽部さんからいただきました→

頑張っている球児を応援する高校野球報道サイト【京都版】

高校野球ドットコム の記事より抜粋

諦めない気持ちが、格言を現実に変えた。

試合はほぼ終わったかのようにみえた。

“野球は最後のアウトを取るまで何が起こるか分からない”という格言があるとはいえ、９回表を迎えた時点で、５点の差があったのだ。心が折れても、不思議ではない。

ところが、昨秋に２点差を９回二死から追いついた経験を持つ、峰山は諦めてはいなかった。

「５点差もあってヤバイなとは思いましたけど、こんなところで負けていられないという気持ちでした。自分が９回の先頭打者だったので、盛り上げようと思った」と話したのは主将の平井杜夫（３年）である。

その平井が９回表の先頭としてライト前ヒットで出塁。その後、二死を取られるも、一、三塁と攻め立てると打線がつながった。

途中出場で １ 番に入っていた小林享峻（３年）がセンターへタイムリーを放つと、続く ２ 番、これも途中出場の東将司（３年 ）がライトへのタイムリーで続く。３番前田透要（２年）もタイムリーでさらに繋ぐと、最後は主砲の細見吉彦（２年 ）が走者一掃の三塁打を放ち、一気に５得点を奪った。

平井が３年生なら、二死からつないだ途中出場の２人も３年生だった。スタメンの多くを２年生に譲りながら、３年生の意地が試合を終わらせなかったのだ。

（中略）

平井主将が胸を張って話してくれた。

「チームが崩れかけた時もあったんですけど、みんなで話し合って、自分たちの好きな野球をやっているんやから、やらされるんではなくて自分たちで意識を持ってやるようにしました。冬場は最後のサーキットトレーニングがしんどいんですけど、カラ元気でもいいからって、元気を出して、最後までやりきってきました。勝ちたい気持ちが強くて、試合で諦める気持ちなんてなかった」。

“野球は最後のアウトまで何が起こるか分からない”

峰山ナインの諦めない気持ちが、格言を現実に変えた。

You Tube にも試合のハイライトがアップされました。

二回戦

2012.7.16

綾部球場

VS. 京都翔英戦

TEAM	一	二	三	四	五	六	七	八	九	TOTAL
峰　山	0	1	0	0	0					1
京都翔英	2	10	0	0	×					12

今大会は、一回戦から吹奏楽部の皆さんにお世話になりました。点差が開いた時も演奏とかけ声で熱く応援していただき、本当に心強く思いました。感謝×２です。

今西部長から **Message**

全国で約5000を数える高校の野球部の多くが、甲子園出場を目標に掲げて日々鍛錬を重ねています。しかし、その目標を達成できるのは、ほんのひと握りの高校に過ぎないのです。一方で、甲子園出場はかなわなかったけれども、野球を通して学んだチームワーク・忍耐力・礼儀などが、その後の人生の大きな助けとなることも事実です。そう考えたときに、高校球児にとっての真の「目標」とは、家族や周囲の人々の支えと自分自身の努力で、精神的・肉体的苦しさと向かいあい、本気で甲子園を目指しながら野球部員として３年間を全うすることなのかもしれません。

第94回選手権大会を終えるにあたり、３年生諸君のこれまでの労をねぎらうとともに、高校球児であったことを誇りに生きていってくれることを期待します。最後になりましたが、保護者の皆様の選手を思う並々でないお気持ちと、これまでの多大な御援助に対し、顧問一同厚くお礼を申し上げます。

峰山高校野球部部長　　今西　熱

編集後記

７月 16 日の夜、「明日からユニホームこすらんでもええし、夏休みお弁当いらんで…」などと言って母たちは嬉しいやら寂しいやら、皆同じ心境で肉を焼いていました。あっという間の２年４ヶ月。一年生の時は試合があれば３時～４時起きもたびたび。それをこえてきたので３年生になると随分楽になった気がしたものです。

野球をやっていたから、たくさん試合も見せてもらったし、話題もありました。「明日何時？」が毎日のコミュニケーションだったような気がします。夏の寄せ書きに吉岡君が「感謝」と書いていましたが、その言葉を皆にそのまま返したいです。最後にいちばん見たかった全員野球を見せてくれてありがとう。まるでドラマの最終回のようでした。

最後になりましたが、部長、監督、OB 会、後援会、保護者会の皆様方には大変お世話になりありがとうございました。今後も峰高野球部のご活躍をお祈り申し上げます。秋季大会頑張ってください。

これからもずっと応援しています。